

改善方策実施計画書

担当部局：経済学部

責任者：経済学部長

幹事：経済学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	【総評】理念、目的、教育目標は大学案内やホームページなどで学生や受験生に周知されているが、周知の程度は学部、研究科により差が見受けられる。とりわけ在学生には『履修の手引』への掲載やガイダンスなどを通じて、一層の周知を図ることが期待される。					
点検・評価問題点	不足する学力を補習等の方法を講じて補完し、学士課程教育に必要な基礎能力を効果的に習得させる必要性が生じている。					
改善方策	1-3-2 経済学部の理念・目的・教育目標を明らかにし、『履修の手引』やガイダンスなどの機会を通じて周知をする。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
		具体案作成	実施予定			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
なし。			A 完全に達成		B 達成半ば	
			C 未達成			
		(B または C の理由)				
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
執行部原案を作成し、教授会に諮り、決定。		2011年度末	○ A 完全に達成		B 達成半ば	
			C 未達成			
		(B または C の理由)				
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
2012年度入学生から実施。		2012年度	○ A 完全に達成		B 達成半ば	
			C 未達成			
		(B または C の理由)				
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
各種媒体のさらなる充実とともにガイダンス等での周知を徹底する。			A 完全に達成		B 達成半ば	
			C 未達成			
		(B または C の理由)				
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	
			C 未達成			
		(B または C の理由)				
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	
			C 未達成			
		(B または C の理由)				

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】理念、目的、教育目標は大学案内やホームページなどで学生や受験生に周知されているが、周知の程度は学部、研究科により差が見受けられる。とりわけ在学生には『履修の手引』への掲載やガイダンスなどを通じて、一層の周知を図ることが期待される。
点検・評価問題点	不足する学力を補習等の方法を講じて補完し、学士課程教育に必要な基礎能力を効果的に習得させる必要性が生じている。
改善方策	1-3-2 経済学部理念・目的・教育目標を明らかにし、『履修の手引』やガイダンスなどの機会を通じて周知をする。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2011 年度から取り組む予定。

所見	計画を前倒して 2011 年度から取り組むことを期待します。また、改善方策を見直してください。
----	---

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

履修要綱やホームページに掲載し、学部教授会においても確認した。

所見	学部の理念・目的・教育目標がさまざまな媒体を通じてより一層周知されることを期待します。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

履修要綱やホームページに掲載している。また、学部教授会で確認して教員間でのコンセンサスを図ると同時に、ガイダンス等で周知に努めている。

所見	さまざまな媒体を通じて学部の理念・目的・教育目標の周知が図られ、教授会で合意形成の努力がなされていることは、評価できます。今後は、どの程度周知されているか、何らかの方法により、周知度の検証が必要でしょう。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：経済学部

責任者：経済学部長

幹事：経済学部事務室

2011年3月1日

認証評価指摘事項	【総評】教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。					
点検・評価問題点	学部の教育・研究上の目的が、明文化されていない。					
改善方策	1-3-5（新規）教育・研究上の目的を学部として定め、学則に落とし込んでいく。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
		→				
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
			(B または C の理由)			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
執行部で原案作成の上、教授会審議を経て、学則改正をおこなう。		2011 年度中	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 文言、様式の統一などが課題として残っており、調整中である。			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
各部局との調整の上、教授会審議を経て、学則改正をおこなう。		2012 年度中	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 内容はできているが、文言、様式の統一を部局間で調整中。			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
各部局との調整の上、教授会審議を経て、学則改正をおこなう。		2013 年度中	A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。
点検・評価問題点	学部の教育・研究上の目的が、明文化されていない。
改善方策	1-3-5（新規）教育・研究上の目的を学部として定め、学則に落とし込んでいく。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部の教育・研究上の目的の明文化について未着手。

所見	
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部の教育・研究上の目的の明文化について、執行部での原案を作成中である。

所見	学部の目的が早急に学則に明記されることが望まれます。
----	----------------------------

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部の教育・研究上の目的を明文化した。

所見	学部の教育・研究上の目的が明文化されたことは評価できます。次年度中に学則に明記されることを期待します。
----	---